北方山草 (30)：99 - 100. March 2013

結実したヤブカラシ　*Cayratia japonica*

美唄市　**新田　紀敏**

今年 (2012) の夏、美唄市の職場近くで道端に見慣れないツル植物があるのに気がついた。道南では何度も見ていたのでヤブカラシ *Cayratia japonica* (Thunb.) Gagnep. であることはすぐにわかったが、分布の北限をかなりはずれているのではないかと気に掛かっていた。

そうこうしているうちに秋も深まり、いつものようにヤブカラシを見ながら職場へ向かっていると、黒いヤマブドウのような実が目に入った。その時は繁殖生態の知識もなかったので何気なく摘み取って職場へ向かった。成りは非常に悪かったので、こんなものかと図鑑を引くと、ほとんど結実は見られないとある。ネットで調べると生理・生態が異なる 2 つのタイプがあり、北海道のものは 3 倍体であるため結実しないらしいが、その辺を詳しく調べた論文もあることがわかった。

ヤブカラシとは

ブドウ科ヤブカラシ属の蔓性多年生草本で、畑や道端にふつうに生え、数 m になる。一般に鳥足状 5 出複葉で巻きひげは葉もしくは花序と対生する。花は扁平な集散花序で 6-8 月に咲き、径 5mm。液果は球状、径約 1cm で黒熟する。日本、朝鮮、中国、マレーシア、インドに分布する。名前の由来は、薮も枯らすほど繁茂することから薮枯とされる。

道内の分布

図鑑類によると、これまでは道南や札幌市内から報告があり、分布は石狩以南となっているので北限を越えていると思われたが、当会の五十嵐博氏によると現在の北限は上川の当麻町とのことであったのでそれよりはかなり南だった。

場所は道路と水田に囲まれた空き地で、30m × 40m 程の範囲に広がっており、ここへ定着したのはかなり以前のようである。産状からは人為的に持ち込まれた可能性が高く見えるが、何かを植えたとすると街路樹のナナカマドが近くにあるので、これがキャリアーかもしれない。

結実の状態

結実は一塊のツルの中に約 0.5、2m の間隔を置いて 3 つの花序で見られた (写真)。いずれも花序の一部だけがかたまって結実に至っており、実の数は 6、3、3 個でそのうち 10 個は黒熟していた (10 月 29 日現在)。

Okada et al. (2003) によると、ヤブカラシには 2 倍体と 3 倍体があり、3 倍体は道端のような人為的な環境に生え、2 倍体はより自然な環境に生える。また、関東以北にはほぼ 3 倍体しか見られない。一般的な性質として、3 倍体は滅多に結実しないが、減数分裂の仕方がいい加減 (英文を意訳しています) であるため、異なる倍数性の生殖細胞が作られ、たまたま和合性の花粉に

出会うと結実するようである。

また、結実する 2 倍体は 3 出複葉をつけるとあるが、今回結実が見られた 3 本の枝のうち 2 本は 5 出複葉のみをつけ、1 本のみが、枝についた 14 枚の葉のうち花序に近い 1 枚が 3 出複葉だった。この結果からみると、結実する枝には特に 3 出複葉をつける性質があるようには見えず、3 出複葉になっているものは遺伝的に異なる形質を持っているというよりは発生過程の偶然による可能性が高いと思われ、この個体は 3 倍体であると思われる。

まとめ

2012 年 10 月、北海道空知地方の美唄市内でかなり以前に持ち込まれたと思われるヤブカラシの結実が見られた。結実した個体はほとんど 5 出複葉のみを付けており、3 倍体と思われるので、結実は減数分裂過程の多様性による組合せの偶然の結果であると考えられる。

分布の北限ではなかったが、野生状態で結実が確認された最北地点ではないだろうか。

謝辞

ヤブカラシの分布について、五十嵐博氏に情報をいただいた。感謝申し上げる。

結実の状態

引用文献

Okada H, Tsukaya H, Okamoto M. 2003. Intra-specific polyploidy and possible occurrence of some genetic types for pollen development in *Cayratia japonica*, Vitaceae. Acta phytotaxonomica et geobotanica 54(1):69-75.

梅沢　俊 2007. 新北海道の花 . 239pp. 北海道大学出版会 , 札幌 .

滝田謙譲　2001. 北海道植物図譜 . 1452pp.

佐竹義輔 ・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次 ・冨成忠夫 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類 318pp. 平凡社 , 東京 .